

第2回北東北知事サミット

平成10年10月22日、岩手県立大学（岩手県滝沢村）において「環境」をテーマに開催され、次の北東北環境宣言と合意事項が公表されました。

【北東北環境宣言】

私たちのふるさと・北東北は、十和田・八幡平や陸中海岸国立公園、世界遺産である白神山地などの雄大で緑豊かな自然はもとより、田園風景や森林、清流など多様な自然に恵まれています。北東北の豊かな水、山、そして光の中で、自然の恵みを受けた農林水産業などの産業活動や人々の暮らしがしっかりと大地に根つき、営々と培われてきました。

また、三内丸山遺跡などの縄文文化や、奥州藤原氏の平泉文化など、多彩で創造力あふれた文化が繰り広げられ、その風土は、今なお脈々と受け継がれています。

このような北東北の自然とそれに抱かれた私たちの暮らし、文化、風土を今一度見つめなおし、これを守り育み、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

また、ものの豊かさや便利さに囲まれた私たちの生活を省み、自然と共に生きてきた先人たちの知恵や工夫を改めて思い起こし、今こそ一人ひとりが暮らしや産業と、環境との関わりを見つめなおし、行動しなければなりません。

私たちは、北東北が「環境」の世紀である21世紀にふさわしい地域となるよう、地域を越え、国境を越えて世界の人々と共に、新しい時代の価値観や地球的な視点を大切にしながら、世界への貢献を目指して、力を合わせて次の取組みを進めます。

- ・恵み豊かな自然環境や誇るべき文化・生活環境を守り育みます。
- ・環境保全等に重要な役割を果たしている中山間地域の維持を図ります。
- ・ゼロエミッション型社会をつくりあげていく取組みを進めます。
- ・「環境の時代」にふさわしい産業の確立に向けた取組みを進めます。
- ・地球環境問題やいわゆる環境ホルモン問題に適切に対応します。
- ・自然とのふれあいなどを通じて環境教育を充実します。
- ・多様な主体の参加のもとに、豊かな環境づくりを進めていきます。
- ・三県が、今後も連携・協力して、全国、世界に先駆けた取組みを進めていくための仕組みづくりを進めます。

1998年10月22日

第2回北東北知事サミットにおいて

青森県知事	木村 守男
秋田県知事	寺田 典城
岩手県知事	増田 寛也

【合意事項】

1 三県の連携・協力に向けた仕組みづくり

北東北三県が、豊かな環境づくりに向けて、連携・協力して先駆的な取組みを進めるための仕組みづくりを進める。

(1) 「北東北環境フォーラム（仮称）」の設置

北東北三県が、互いに情報交換を行うとともに、連携・協力して先進的な取組みを進めていくため、その中心となる組織として、「北東北環境フォーラム（仮称）」を設置する。

(2) 共同研究開発に向けた仕組みづくり

三県の試験研究機関等が、「環境」をテーマとする共同研究開発を進めるため、そのための仕組みづくりについて検討を進める。

(3) 環境情報ネットワークシステムの構築

北東北三県内の環境（河川の水質、酸性雨の状況等）に関する情報ネットワークシステムの構築に向けた検討を進める。

2 環境教育・自然とのふれあいの推進

次代を担う子どもたちが、北東北のかけがえのない自然や、環境に負荷の少ない生活を大切なものと考え、主体的に行動していくよう、三県共同で取組みを進める。また、北東北の恵み豊かな自然について、環境教育の実践やエコ・ツーリズムなどの場としての活用を図る。

(1) 「子ども環境サミット（仮称）」の開催

自然とのふれあいなどを通じて、子供たちの「環境」に対する意識の啓発と自主的な行動を促すことを目的として、「子ども環境サミット（仮称）」を開催する。

(2) 児童向け啓発冊子の作成等

三県が協力して児童向け啓発冊子を作成するとともに、その内容のデータベース化について検討を進める。また、環境に関する教材についての研究を進める。

(3) 自然とのふれあいの促進

三県が協力して、北東北の恵まれた自然を生かし、環境教育を実践していく。また、エコ・ツーリズムなどによる自然とのふれあいの場としての活用を図るとともに、積極的にPRを行う。

3 中山間地域の維持と「環境の世紀」にふさわしい産業の確立

いわゆる中山間地域は、国民的財産ともいべきさまざまな公益的機能を持っており、この機能の維持向上を図るため、地域資源を生かした産業の振興など地域からの取組みを一層深めるほか、国としての支援体制の確立に向け国民的コンセンサスの形成を目指すなど、三県が共同して中山間地域の活性化に取り組む。

また、「環境の世紀」にふさわしい産業の確立を目指し、三県が共同して取組みを進める。

- (1) 公益的機能の保持と国民的コンセンサスの形成
農地や森林などが持つダム機能・水源涵養の役割など、中山間地域が保持する公益的機能に関する国民的コンセンサスの形成を目指し、三県が協力・協調して全国に向け、情報発信していく。環境と調和した農林水産業や新しい産業などについて共同で検討を進める。
- (2) 環境調和型産業の振興
環境と調和した農林水産業や新しい産業などについて共同で検討を進める。
- (3) 持続可能な森林経営に向けた調査・研究
森林生態系の健全性や活力を保ちながら、森林を管理・経営していく、持続可能な森林経営を目指し、三県が共同して調査・研究を行う。
- (4) 多自然居住地域の形成
都市との交流の促進等による中山間地域をはじめとする地域の活性化のための仕組みづくりに向けた調査・研究を進める。

4 北東北の恵まれた自然環境の保全・創造

白神山地、八幡平、十和田湖など、全国、世界に誇りうる北東北の恵まれた自然環境を将来に向け広域的、一体的に保全・創造していくため、エコロジカルネットワークのマスタープランを策定するとともに、十和田湖の水質保全対策を進める。

- (1) 「緑のグランドデザイン(仮称)」の策定
白神山地から十和田湖そして奥羽山系(鳥海山系も)に至る地域において、野生生物の保護のための森林の連続性の確保と生態系の保全を目的としたエコロジカルネットワーク(緑の回廊)の構築を目指し、そのマスタープランである「緑のグランドデザイン(仮称)」を策定する。
また、これに基づく必要な復元・修復を行うとともに、モニタリングを実施し、その成果を全国・世界に向け情報発信する。
- (2) 十和田湖の水質保全対策の推進
十和田湖の水質保全に向け、特定環境保全公共下水道の一層の推進を図るとともに、水産資源の確保と水質の保全を共に満たすための調査研究を進める。

5 ゼロエミッション型社会の構築

ゼロエミッション型社会の構築を目指して、三県が率先して全国に先駆けた取組みを進めるとともに、広域的な廃棄物リサイクルシステムの構築を目指す。

- (1) 三県の率先行動
北東北三県は、互いに協力・協調しながら、ISO14001認証取得に向けた検討・調査、低公害車の導入、環境に配慮した施設整備、グリーン購入等、ゼロエミッション型社会の構築に向けた取組みを率先して進める。
- (2) 廃棄物の再資源化・再利用の促進
廃棄物の再資源化・再利用の促進を図るため、地域の鉱山製錬所の有する技術、施設等を活用した「北東北家電リサイクルシステム」など、広域的なりサイクルシステムの構築に向けて、三県が共同して検討を進める。

6 環境ホルモン等の環境問題への対応

現在及び将来の世代のためによりよい環境を守り育てるため、地球環境やいわゆる環境ホルモン等の化学物質の問題に関して、三県が共同して調査・研究を進める。

- (1) 地球環境問題に関する共同研究等
 - ア 酸性雨
白神山地、十和田湖、奥羽山系等広域的な森林生態系への酸性雨の影響の問題に関して、三県が協力・協調して酸性雨の広域的な実態調査を行うとともに、その影響について検討を進める。
 - イ フロン回収処理システム
フロン回収処理システムの構築に向け、三県共同で検討を進める。
- (2) いわゆる環境ホルモン等の化学物質に関する調査・研究
いわゆる環境ホルモン等の化学物質による環境汚染の状況について、三県が協力・協調してその実態調査を行うとともに、環境や生物等に対する影響とその対策について調査・研究を行う。